

各部会)令和3年度検討報告・令和4年度検討テーマ一覧

資料2

部会	R3年度 検討内容			R4年度 検討内容		
	検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
病院部会	緊急時の受け入れについて(継続)			緊急時の受け入れについて	新型コロナウイルス感染拡大により、緊急時の受け入れの際にも様々な問題が発生した。昨年度はコロナウィルス患者が回復後、後遺症や持病等で退院が出来ず、病床を逼迫することがあった。今年度は、急激な感染拡大によってコロナウィルス陽性者の搬送だけでなく、別の疾患等で救急搬送された患者がコロナ陽性だったケースも増えた。その中には緊急手術が必要なケースもあった。2022 年になり、連日病床も逼迫しており、緊急時の受け入れについては、重要課題となっている。そのため継続検討テーマとする。	
医師会部会	在宅医療の充実に向けて	<p>【検討内容】</p> <p>①令和3年度安城市エンドオブライフ・ケア研修会 研修テーマは「人生の最終段階における意思決定支援、多職種連携、倫理的問題等、実際の現場で感じる悩みに対応できる能力を身に付ける」とし、安城更生病院杉浦真医師を講師に迎え、Zoomブレイクアウト機能を使用したロールプレイ・グループディスカッションを行うという初めての試みを実施。</p> <p>②新型コロナ感染症自宅療養者に対する医療提供体制検討会 医師会員その他関連機関に連絡し、外来診療や検査の協力依頼、事例検討、往診及び訪問看護提供体制の検討を実施。</p> <p>【結果・方向性など】</p> <p>①聴講者がビデオOFFで参加し、客観的にロールプレイを見ることが出来たり、参加者が集中できたのはWeb開催のメリットであった。研修会開催方法も検討課題。今年度、専門職のためのACPマニュアルが完成したため、事前資料として読んでから研修に参加して貰うなどの工夫や、ファシリテーターの育成に努めたい。 会議回数1回 参加人数 65人</p> <p>②検討会を3回実施。(Zoom2回、対面1回 延べ90人参加) 安城市新型コロナ感染症自宅療養者対応医療機関リスト作成。今後の感染症流行状況にて必要時検討</p>	会議 4 回 参加人数 延べ155人 電話 FAX メール その他 (Zoom開催3回、 対面会議1回)	在宅医療の充実に向けて	<p>・エンドオブライフ・ケア研修会継続によりACPファシリテーター育成を行い、専門職に対するACPの普及を図る。</p> <p>・新型コロナ感染症自宅療養者に対する在宅医療提供体制を整備し、行政(保健所)との協力・連携について検討する</p>	
歯科医師会部会	多職種連携	<p>【検討内容】</p> <p>・会議のありかたについて 開催方法、報告方法</p> <p>・研修会について 担当者変更による引継ぎ、開催方法について</p> <p>【結果・方向性など】</p> <p>・次年度に向けて再度検討</p>	会議 3回 参加人数 延べ 6人 電話及びZOOM	多職種との連携について	<p>・会議のあり方や研修会について、引き続き検討する。</p>	
薬剤師部会	医療用麻薬の取り扱い			医療用麻薬について	今後高齢化が進み、「医療用麻薬」が処方される機会がますます増えると予測される。 患者のACPを考える中で「医療用麻薬」を必要なときに必要な量をタイミングよく供給できるようにするには多職種の方からの理解と協力が不可欠であると思われる。	

部会	R3年度 検討内容			R4年度 検討内容		
	検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
訪問看護ネットワーク部会	災害医療における多職種連携			①災害BCP策定 ②安城市ACPマニュアルの共有、わたしノートの啓発	①R3年度介護報酬改定で災害対策BCP策定が3年の経過措置で義務付けられた。これを受け各事業所で出来ることは進めているが、行政、医師会、その他介護サービス事業所との連携なくしては有効活用できないため、連携を構築し策定を完成したいと思います。 ②R3年度1年がかりで完成したACPマニュアル・わたしノートを、次は我々医療連携に携わる者が共有し、療養者や市民に広め定着していくことを目指したいです。	すべての部会
リハビリネット部会	人生の最終段階におけるリハビリテーションのこれから			情報連携ツール（紹介状・サマリー書式）の効果判定と理想形の再検討	地域包括ケア時代における医療介護連携の推進が求められる中、安城市においても介護予防や看取り体制の構築に向けた取り組みが進められている。さらに昨今の新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、これまで行ってきた各事業所や医療機関のサービス提供体制や市内の顔の見える関係の強みを活かした医療介護連携では対応しきれないことが、表面化している喫緊の課題といえる。その一方で、withコロナで目指すべき体制の一助として、DXの加速が期待されている。ICT活用、e-スポーツによる介護予防、介護予防と保健事業の一体的実施に向けたデータベース活用などが、今後、主要な論点となってくると予想されるが、これらはあくまでも「連携の推進」のためのツールである。医療、介護、予防など、関わりが多岐にわたるリハビリ専門職の領域においては、2012年に行われた市内事業所の紹介状・退院時サマリーの書式統一から10年が経ち、改めて、DX化も含め、どのような連携の課題があり、どのような双方の情報の統合や連携がシームレスな医療介護連携といえるか検討が必要な時期にある。アドバンスケアプランニングとして「わたしノート」の活用推進が始動することも踏まえ、まずは、紹介状・退院時サマリーとして提供すべき内容や重複する情報の割愛など細部のブラッシュアップをしていく必要がある。	すべての部会（特に、病院・医師・訪問看護・ケアマネ・小規模多機能・デイ・ヘルパー・施設・グループホーム部会）
ケアマネット部会	看取り期における多職種連携			看取り期における意思決定支援（ACP）の実践 看取り期における多職種連携	・過ごす場所（在宅、病院、施設）が変わったとしても「本人が望む場所で、自分らしく最期まで今を生きる」ことを支援するために、多職種連携は重要である。 ・意思決定支援（ACP）を実践するために「わたしノート」を活用できるよう多職種で意見交換や検討の必要がある。 ・要介護、要支援認定者だけではなく元気な頃から「わたしノート」を記入、活用していただきたい、ケアマネジャーとして市民啓発活動をする必要がある。	すべての部会
小規模多機能部会	小規模多機能ホームの役割、活用方法について事例を通して地域の現状を考える。	【検討内容】 ・範囲の決まっていない小規模多機能ホームの家族支援について →サービスの際限がない中でどこまでの支援を考えるか？ ACPをはじめ関わり方の検討を行う ・研修会の在り方 →毎年事例を通して開催してきたが、より知っていただくためにどのようにしていったらいいか検討する 【結果・方向性など】 各施設悩みながらそれぞれが対応しているが、小規模多機能ホームとしての役割や、各施設の得意・不得意・ある程度の方の考え方の確認を行うことで、お互いに協力し合える関係性づくりを行う。	会議 6回 参加人数 延べ36人 （小規模多機能部会会議）	家族支援について（看取りやACPを含めて）	小規模多機能ホームの支援は多岐にわたり、どこまでという範囲が決まっていない。その中で特に家族支援に関する問題が、各施設からあがり、今後の運営を考えていくうえで大きな課題になっている。研修企画にもあげているが、この安城市においてどんな支援が必要で小規模多機能ホームとして役割を担っていくのか。検討していく。	

部会	R3年度 検討内容			R4年度 検討内容		
	検討テーマ	検討内容、結果・方向性	検討回数・方法	検討テーマ	理由	協力してもらいたい部会
デイネット部会	「本人が望む場所で、自分らしく最期まで今を生きる」ため通所系サービス事業所が出来ること			検討中		
ヘルパーネット部会	未定			検討中		
施設部会	①施設間での情報共有・連携強化 ②感染対策の現状と今後	【検討内容】 新型コロナウイルス感染症の感染が拡大する中、どの事業所も事業が継続でき、従業員を守るように努めることができた。新型コロナウイルスにおける各事業所のワクチン接種状況や面会などの対策について、情報共有した。また各事業所のワクチン接種が円滑に実施できるように高齢福祉課と話し合ういい機会となった。 【結果・方向性など】 各事業所の新型コロナウイルス感染症の現状報告や面会等の対策状況を把握することで、ある程度の足並みを揃えることができた。引き続き各事業所間の感染対策等の状況を共有し、事業が継続できるように努めたい。	会議 6回 参加人数 延べ100人	・新型コロナウイルス感染予防の対応・対策について ・BCP(災害・感染)作成の情報共有	新型コロナウイルス感染症が拡大している中、ワクチン接種状況や面会、利用者・入居者の受入れについて、情報共有し、それぞれの事業所が社会資源として地域に貢献できるよう努める。 災害だけでなく、感染BCPについても作成が必須となる。BCP作成にあたり、それぞれの事業所での課題を他事業所の状況を把握することで、より良いBCPを作成することができる。	
グループホーム部会	本人、家族それぞれの思いを把握しお互いの思いが尊重されるような看取りとなるために、業務や事例を通して考える。			コロナ禍での活動について	地域密着型共同生活介護であるけれど、コロナが拡まり、社会・地域とのかかわりを維持することが難しい時が続いています。そこで、今、私たちGH介護従事者がこの状況の中でも自立支援の方法やホーム運営についてどうか変化させられるか、しているかを共有する。自立支援の中にはLIFEなど加算についても勉強していく機会となれどと考えています。	
保健福祉部会	○自立支援について。 ・R2年度自立支援サポート会議からの課題整理と課題解決のための実践。	【検討内容】 ・自立支援サポート会議についての振り返りの目的を確認。 ⇒事例を通じて包括と生活支援コーディネーターとで改めて地域について考えることで、地域の強みを大切にしつつ、地域の課題や今後の取組みの方向性を共に考える機会とする。 ・振り返りシートの案を作成。 ・実際に自立支援サポート会議の事例から振り返りシートを試行し、その感想を部会にて共有。 ・感想を元に改めて振り返りシートを見直し。 ・見直したシートで改めて各地区にて振り返りを実施。 ・実施した振り返りシートをサルビー見守りネットへ掲載し、共有に努めた。 【結果・方向性など】 一年間の検討及び作成した振り返りシートの施行を通し、地域の強みや課題、今後の取組みの方向性を包括と生活支援コーディネーターとで検討することができた。作成した振り返りシートの活用については、改めて検討する。	会議21回 参加人数 延べ112人 その他(検討チーム会・地区会)	ACP啓発のためのカリキュラムを考える	令和3年度に『専門職のためのACPマニュアル』及び『わたしノート』が作成された。一般市民に理解し、活用してもらえるよう、統一した教材を作り、周知できるようにするため。	